

おおつちよう
岩手県大槌町の被害状況



津波により油が流れて火災が発生。歩道橋が焼失



新たな町の拠点の仮合同庁舎



無惨な駅の案内板



機能を失った町役場

東日本大震災から50日

私たちが学ぶこと、できること…

未曾有の大災害となってしまった「東日本大震災」。大津波や原子力発電施設の事故などの被害ははかり知れないものであり、連日報道で見聞きする被災地の惨状の数々に、大地震の怖さを感じずにはいられません。

東海地震の発生が危惧され、とても他人事とは思えない富士市も、これまで被災地に対して物資の支援や人的支援をしてきました。

この大震災を教訓に、「私たちが学ぶこと」と「できること」についても一度考えてみましょう。

皆さんの善意が届いています 被災地への支援状況報告

「東日本大震災」の被災地に対して、市として、支援物資の搬送や、緊急援助隊の派遣などを行っています。これまで、市民の皆様や企業から、多くの善意が寄せられました。今後も支援を続けていきます。

●物資支援 ● 4月20日現在

①茨城県ひたちなか市

水ペットボトル2640本など市の備蓄物資

②岩手県滝沢村

トイレットペーパー1960ロールなど市内事業所から提供

③福島県南相馬市

大人用紙おむつ168箱など市内事業所から提供

④福島県南相馬市

3月29日、ふじさんめつせで市民3300人から寄せられた13トントラック4台分の食料品など
※このほか、少年交流事業をしている岩手県雫石町、宮城県栗原市にも支援物資を提供しています。

●人的支援 ● 4月20日現在

①緊急消防援助派遣（第1次〜7次）

活動場所 福島県いわき市、相馬市
派遣数 延べ47人

②静岡県現地支援調整本部に派遣

活動場所 岩手県遠野市、大槌町
派遣数 延べ3人

③日本水道協会からの要請により派遣

活動場所 宮城県石巻市
派遣数 延べ13人 など

被災地支援活動を経験して

東北地方太平洋沖地震発生後5日目の3月15日、災害協定を結んでいる茨城県ひたちなか市に水などの物資をトラックで搬送しました。現地の市庁舎に22時ごろ到着し、物資の引き渡しが終わった直後に静岡県東部地震が発生。被災地の状況を把握することもできずそのままとんぼ返りし、翌日午前3時ころ富士市に戻りました。

2回目は4月1日〜9日の間、静岡県の要請で岩手県遠野市を拠点に、大槌町で活動しました。大槌町は、町長を初め職員の約4分の1の34人が犠牲になり、庁舎も壊滅。行政機能が完全にストップしていました。

私は、町の総務的な仕事を主に、支援物資受付などの手伝いをしました。また、いくつかの避難所を訪問する機会があり、被災状況や被災者に津波発生時の話を聞きました。

「避難勧告に従った人は助かった。震災前に何度か津波警報などが出て、実際に津波が来なかったので油断したのでは」というお話がありました。

私たちは、今回の震災を教訓に、「避難勧告が発表されたら必ず避難する」ということを改めてお願いしたいと思います。



被災地の惨状に言葉を失ったという
富士市防災危機管理課
太田 智久 主査

